

令和6年度研究推進計画

三次市立三和小学校

学校教育目標

ともに学び合い、主体的に行動する児童の育成

1 研究主題および主題設定の理由

(1) 研究主題

ともに学び合いながら理解を深め、主体的に学ぶ子供の姿をめざして
～アクティビティ型の授業の設定とファシリテーションを活用した指導方法の工夫を通して～

(2) 主題設定の理由

ア 昨年度の取組から

本校では、昨年度、「知識創造」をキーワードに、児童の主体的な学びの実現を目指した。教師が「知識」や「学習過程」に対する見方を変え、児童が自分で知識や情報を使って「学びのプロセス」を進めることを促し、知識や情報をより深く理解して、自分の考えを概念化し、それらを活用する力を身に付けることができるよう授業の質的転換を図った。そのために、単元構想シートを活用し、次の三つの視点をもって職員間の対話を中心に協働研究を進めてきた。

- ① 「概念的理解の深化」・・・本単元で扱う知識や情報・技能、関連する生活経験や知識、既習内容、未定着事項、学習用語などをリストアップし、児童がそれらをつなげて自分の考えとして形成させていく概念的な理解とは何かを検討すること。
- ② 「アウトプット型の学習活動」・・・実際に手を動かしたり体験したりしながら探究する活動や、まとめたり表現したりする言語活動など、児童が自分の学びをアウトプットする活動を単元計画の中に組み込むこと。
- ③ 「自己調整力の育成」・・・自分の学習目標や計画を立てたり、学習の進捗や成果を確認したり、必要に応じて学習方法や内容を修正したりできる手立てを講じること。

イ 昨年度の成果と課題から

昨年度末の三次市学力到達度検査によると、全学年が全国平均を上回るかほぼ同程度となった。全国平均値以上の課目は13/16課目、児童割合も31/44人で、いずれも目標とした7割となった。また、個別の全国平均との差について、前年度と比較すると全校で55%の児童が前年度より伸び、課題のある児童が多かった中学年では75%の伸び率であった。第6学年は、一昨年度の三次市学力到達度検査では算数が全国平均を大きく下回ったが、年度末の同検査では、全ての教科において全国・市の平均値を上回った。全体的に、低迷が見られた学年についても回復してきている。5月と12月に実施

した研究推進に関わる児童意識調査の比較では、「対話的な学び」や「深い学び」に関する項目を中心に15項目中10項目が上昇し、新たな学びに向けた意識の高まりがみられる。

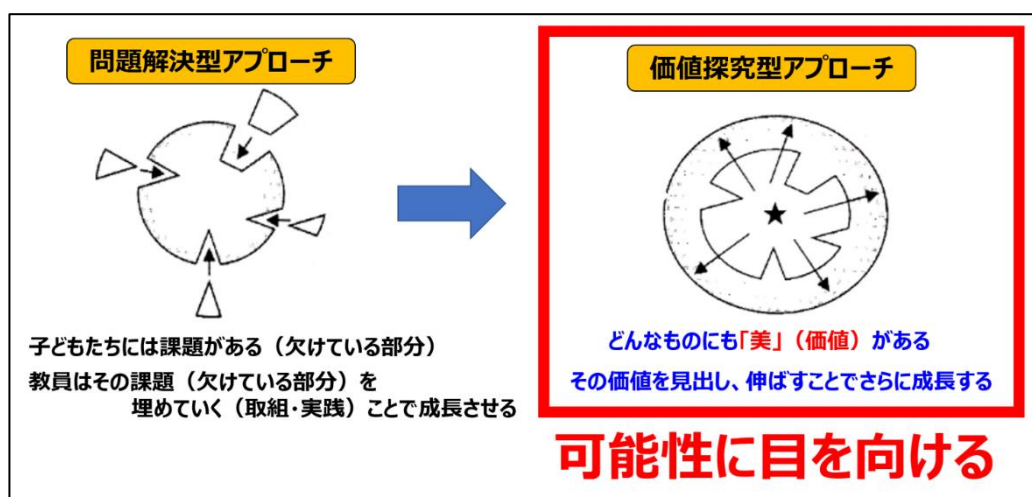
しかし、全国や市の平均値を下回っている項目の割合や児童の割合がいずれも3割程度ある。特に、児童自らが課題を設定し解決していく学習活動や、根拠を示しながら自分の考えを伝える言語活動が不十分であることが明らかになっている。

これらはいずれも、児童が学ぶ意義、学ぶ価値について十分に考えを深められず、与えられた課題を「こなす」段階に留まっていること、また、「教師＝評価する者・教える」、「児童＝評価される者・教わる」という構図が児童、教職員ともに無意識のうちに固定化していることに起因すると考える。

また、昨年末に実施した「次年度の研究のキーワード」に関する教職員アンケートにおいて「児童の自己調整力の育成」が多く挙げられていることから、教職員の意識も、児童主体の学びに転換する必要性を感じながらも、実際の授業においては、なかなか教師主導の考え方から脱し切れていない状況がうかがえる。

そこで、今年度は昨年度の研究をベースにしつつ、児童の「自己調整力の育成」を重点に研究を進める。児童主体の学びとなるような「アクティビティ型の授業の設定」と児童自身が自己調整を図れるような、教師による「ファシリテーションを活用した指導方法の工夫」を柱に、児童・教職員がともに、様々な「価値」について探究しながら、「評価の視点」をつくり、児童が目的（問い）をもって学びに向かい、他者と関わり合いながら、様々な方法で解決を試み、自分なりの成果を見出し、自らの学び方について振り返り、改善点を見つけ、自らの学びをよりよいものへと高めていくような姿を目指す。

☆研究を進めていく上での基本的な考え方



2 児童につけたい資質・能力

三和小学校では、資質・能力を「知識を生かし深める力」「共に考え伝え合う力」「自ら関わり学び続ける力」の3つとし、「児童の自己調整力を育む教育の在り方の探究」を通して育成していく。

【三和小中学校で身につけさせたい資質・能力】						
知識及び技能		思考力、表現力、判断力等		学びに向かう力、人間性等		
知識を生かし深める力		共に考え伝え合う力		自ら関わり学び続ける力		
区分	初期		前期		中期	
学年	小1・小2		小3・小4		小5・小6・中1	
知識を生かし深める力	<p>①物事や事象への驚きや疑問をもつことができる。 (問い)</p> <p>②学んだことを活用して学習したり、生活に役立てたりすることができる。 (活用)</p> <p>③生活や遊び、体験活動から得た知識などを生かして気付きや考えをもつことができる (概念的理解)</p>	<p>①驚きや疑問をもち、理解するための知識や情報、技能等を学び取ろうとすることができる。 (問い)</p> <p>②概念的に形成された知識・技能を生活や学習の中で活用し、課題解決することができる。 (活用)</p> <p>③生活や遊び、体験活動から得た知識などを生かして知識を形成することができる。 (概念的理解)</p>	<p>①驚きや疑問をもち、理解するための知識や情報、技能等を自ら獲得しようとするすることができる。 (問い)</p> <p>②思考・判断・表現を通じて概念的に形成された知識・技能を生活や学習の中で活用し、見直しをもって課題解決することができる。 (活用)</p> <p>③生活や遊び、体験活動から得た知識などを生かして知識を形成することができる。 (概念的理解)</p>			
共に考え伝え合う力	<p>①身の回りのことや体験したことから情報を集め、比較し、特徴をとらえることができる。 (思考・判断)</p> <p>②他者の考えと自分の考えを比較しながら話し合い等を行うことができる。 (協働)</p> <p>③言葉を適切に用いて、自分や友達の気付きや考え、よさなどを、順序を考えながら伝え合うことができる。 (表現)</p>	<p>①物事をとらえる視点を持ち、情報を比較・分類・関係付けたりしながら特徴や傾向をとらえ、目的に合わせて考え、判断することができる。 (思考・判断)</p> <p>②他者と協力して、多様な考えを出し合い、課題解決に向けた取組を行うことができる。 (協働)</p> <p>③言葉を適切に用いて、伝える相手や目的に応じて理由や事例などを挙げながら伝え合うことができる。 (表現)</p>	<p>①物事をとらえる視点を持ち、目的や意図に応じて情報を比較・分類、関係付けたりしながら根拠をもって考察することができる。 (思考・判断)</p> <p>②他者と協力して、多様な考えを出し合い、課題解決に向けて協働的に活動することができる。 (協働)</p> <p>③相手や目的に応じて、言葉を適切に用い、事実と意見を区別したり、根拠や立場を明確にしたりして表現し伝え合うことができる。 (表現)</p>			
自ら関わり学び続ける力	<p>①自分から人・もの・ことと関わり合い、互いに楽しく活動しようとしている。 (コミュニケーション)</p> <p>②学んだことよさや楽しさ、自己の成長を感じ、さらによりよくしようとする <u>ことができる。</u> (自己調整)</p> <p>③自分で決めたことをやり切ろうとしている。 (自己実現)</p>	<p>①他者と関わり合う中で、互いの気持ちや行動を理解し、関係を深めていこうとしている。 (コミュニケーション)</p> <p>②学習計画を立てたり、学習内容や学習方法について振り返ったりしながら、自己の成長を自覚し、<u>自らの学びを評価することができる。</u> (自己調整)</p> <p>③将来の夢や希望、憧れをもち、目標に向けて粘り強く取り組もうとしている。 (自己実現)</p>	<p>①他者と関わり合う中で、感情や行動をコントロールしながら、互いの関係を深めていこうとしている。 (コミュニケーション)</p> <p>②見直しをもって学習計画を立てたり、学習内容や思考過程、<u>学習方法などの観点をもって振り返ったりしながら、自らの学びを評価し、改善することができる。</u> (自己調整)</p> <p>③自己理解を深め、将来の夢や希望、憧れをもち、目標に向けて粘り強く取り組もうとしている。 (自己実現)</p>			

3 研究における問い

本研究における問いは次の通りである。

【本研究における問い】

- ① 本校児童における「自己調整力」とはどのような力か？
- ② 児童自らが自己調整力を育むような「アクティビティ型の授業」の在り方とは？
- ③ 児童自らが自己調整力を育むような「教師のファシリテーション」の在り方とは？

【現段階での本校の考え】

- ① 自分の学習の仕方を振り返り、改善点を見つけて次の学習に生かしていく力
- ② ・児童が自己選択、自己決定できる場面及び学習過程を振り返る場を保障した授業
・児童主体の「問い」と「アウトプット」のある単元計画
- ③ 児童の発言を「促す」「つなげる」「広げる」「深める」ような切り返し

→本年度の研究によって【現段階の本校の考え】がどのように進化していくか。

4 研究内容

研究における問いの解決に向けて、様々な教科・領域において、次の点を取り入れる。

- (1) 自己調整の三つの要素（動機付け・学習方略・メタ認知）と学びのプロセス（見通す - 実行する - 振り返る）をリンクさせた探究的な教育実践を行う。

三要素	動機付け(どこに向かって)	学習方略(どうやって)	メタ認知(どうだったか)
学習過程	見通す 【自ら問いをもって探究する】	実行する 【人と関わり、協働して探究する】	振り返る 【学んだことや学び方を自己に生かす】
児童の姿・つぶやき	問いの表出・解決への見通し・ゴールイメージの交流、共有・価値の思考 ・「あっ!」「えっ!」 ・「なぜだろう?」 ・「もしかすると○○かも」 ・「やってみたい!」	個や集団で見方・考え方を吟味し、知識・技能を再構成・価値の探究 ・○○したら●●できた。 ・そういうことか! ・そういう考えもあるな。 ・他にもないかな。	見出した解(学び・学び方)について、その面白さやよさを実感・価値の創造 ・○○ってこういうことだ。 ・面白かった!次もやりたい ・便利だな。 ・もっとよくするには・・・
アクティビティ型	問いの表出, 創造 ・経験や体験を通した出会いから2段階での課題設定 ・解決に向かう探究活動を自己選択・自己決定 ・評価シートの作成	多彩な交流活動 ・自然発生的な交流⇔意図的な交流の往還 ・共通体験⇔試行錯誤の往還 ・具体⇔抽象の往還 ・評価シートの吟味	価値づけ, 客観視 ・評価シートの再考、修正 ・評価シートで相互評価 ・評価シートを用いた振り返り
ファシリテーション	場をつくり, つなげる 「どうしたい?」 「どうなりたい?」 「やってみる?」 「何のために?」 「どうなればいいのか?」 「どうなりそう?」	受け止め, 引き出す 「なるほど, 確かに。」 「本当に?」「もう他にはない?」 かみ合わせ, 整理する 「それってどういうこと?つまり?」 「どこに着目したの?」 「どんな関係?」「何がすごい?」	まとめて, 分かち合い, 伸ばす 「どんな力がついた?」 「どんな価値があった?」 「次はどうしたい?」 「○○ということかな?」 「○○というところがすごい!」 「どう生かす?」

(2) 評価シートの作成・交流

※別紙「評価シート」提案資料 参照

(3) 児童の姿で語り合う校内研修

実践交流の場において、児童の姿（写真など）や記述及び児童と作成した評価シートなどをもとに、教職員が児童、クラスの成長を語り合い、価値づけることで自らの教育観を見つめ直し、さらなる授業力向上につなげていく。「児童の姿を語る」のではなく、「児童の姿で語る」ことで、単なる伝達・報告にとどまらず、自らの見取り、価値づけや働きかけを交流し、教職員の中に新たな問いが表出し、アクティビティ型の授業やファシリテーションの在り方について探究する場となることを目指す。

(4) ツールの活用

① 対話・つぶやきの日常化

日々の授業において、「活動（作業）」や「協働（グループ学習）」を意図的に取り入れたり、児童が「つぶやきやすい環境」をつくったりすることで、児童が自然体で互いに学び合い、思考を深めることを楽しめるようにする。ペアやグループ学習では、考えを伝え合うだけにとどまらないようにする。

【対話の目的及び留意点】

- [1] 自分の考えを、根拠をもって示す。
- [2] 友達の考えを、敬意を持って聞く。
- [3] 互いの考え方の違いや類似点を踏まえて自分の考えをブラッシュアップする。
- [4] 全体において授業の流れに合わせて臨機応変に発言する。

② ホワイトボード・思考ツールの活用

グループでの児童同士のコミュニケーションを大切にしつつ、結論を出すことを急がず、対話とアイデアの創発を促すよう効果的に使う。ホワイトボードに慣れてきたら、課題に応じて思考ツールやタブレット上での操作・共有・編集等活用の幅を広げていく。

③ 学びシートの活用（教職員）※別紙「学びシート」提案資料参照

- ・研究授業で参観者による評価を授業改善に生かす。
- ・参観者は研究授業を自らの授業改善に生かす。

(5) 自学ノートの交流

※別紙「自学ノート」提案資料参照

(6) やってみたいの実施

※別紙「やってみたい」提案資料参照

5 研究に係る主な研修計画（県へき地教育研究大会まで）※追加あり

月日	研修内容	備考
4月5日（金）	研究推進構想（小中合同）	
4月15日（月）	授業研究（4年）	
5月2日（木）	単元構想①（4年・5年）	
5月16日（木）	単元構想②（4年・5年）	
5月23日（木）	指導案《前半部分》検討（2・4・5年）	
6月6日（木）	研究紀要・レジュメ検討	
6月20日（木）	小中合同研修会（授業研究）	
7月23日（火）	指導案・研究紀要等 個別指導①（指導主事来校）	
8月6日（火）	公開研指導案最終確認	
8月20日（火）	指導案・研究紀要等 個別指導②（指導主事来校）	
9月19日（木）	研究会プレゼン（研究報告・提案レポート）リハーサル	
10月18日（金）	広島県へき地教育研究大会	
※広島県へき地教育研究大会以降は後日提案		

6 検証の指標

検証の視点	検証方法	達成目標
標準学力調査による 学力定着度の客観的 把握	三次市学力到達度検査（全国標準学力調査） ・3～6年生	全国平均以上が16 項目中11項目以上 （7割）
めざす姿に対する児 童の意識調査	研究推進の検証に係る評価指標（児童意識調査） ・主体的な学び，対話的な学び，深い学び	肯定的回答8割
その他参考とする資 料	・評価シートの評価項目，記述内容の変容 ・児童，教職員による「成長の実感」に関する声，姿，記述など	